

再評価結果(令和 8 年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道2号 福山道路				事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：広島県福山市瀬戸町長和 至：広島県福山市赤坂町赤坂					延長	3.3km	
事業概要								
一般国道2号は、大阪府大阪市から福岡県北九州市までを結ぶ延長約680kmの主要幹線道路である。 一般国道2号 福山道路は、広島県福山市瀬戸町から赤坂町を結ぶ延長約3.3kmのバイパスである。 事業目的は、福山都市圏の交通混雑の緩和及び交通安全の確保、物流の効率化支援や周辺地域との連携強化である。								
H13年度事業化			H12年度都市計画決定		H18年度用地着手		令和元年度工事着手	
全体事業費		約751億円		事業進捗率 (令和7年3月末時点)		約38%		供用済延長 0.0km
計画交通量		29,700 ～ 37,800 台／日						
費用対効果分析	B/C	EIRR	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年	
	(事業全体)	(事業全体)	2,674 / 10,668億円		8,640 / 41,778億円		令和7年	
	3.9(1.5)	11.9%(5.7%)	(事業費：2,493/9,745億円 維持管理費：177/709億円 更新費：3.6/214億円)		(走行時間短縮便益：7,309/36,460億円 走行経費減少便益：1,006/4,272億円 交通事故減少便益：325/1,046億円)			
	4.8(2.3) [2%]							
	5.5(2.9) [1%]							
	(残事業)	(残事業)	感度分析	(事業全体)		(残事業)		
3.2(3.1)	23.5%(13.4%)	交通量		B/C=3.2～4.6(±10%)	交通量	B/C=2.6～3.9(±10%)		
4.6(4.4) [2%]		事業費		B/C=3.8～4.0(±10%)	事業費	B/C=3.0～3.6(±10%)		
5.6(5.3) [1%]			事業期間	B/C=3.9～4.0(±20%)	事業期間	B/C=3.0～3.4(±20%)		
事業の効果等								
①円滑なモビリティの確保 ・渋滞損失時間の削減が期待される。 ・混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・国道2号を利用するバス路線の利便性向上が期待できる。 ・広島空港へのアクセス向上が期待される。 ②物流効率化の支援 ・福山西ICから福山港(重要港湾)へのアクセス向上が期待される。 ③都市の再生 ・広域道路整備基本計画に位置づけのある福山環状道路の一部を形成する。 ④国土・地域ネットワークの構築 ・高規格道路「倉敷福山道路」の一部として位置づけられている。 ・日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。(福山市～三原市) ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる。(尾道市～福山市) ⑤個性ある地域の形成 ・鞆の浦(R6観光客数：約48万人/年)等へのアクセス向上が期待される。 ⑥災害への備え ・第一次緊急輸送道路である国道2号の代替路線を形成する。 ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が期待される。【4,443千t-CO2/年→4,440千t-CO2/年】 ⑧生活環境の改善・保全 ・NOX排出量の削減が期待される。【10,638t-NO/年→10,627t-NO/年】 ・SPM排出量の削減が期待される。【537t/年→536t/年】 ⑨他のプロジェクトとの関係 ・同時に都市計画決定された「福山沼隈道路」、「福山西環状線」など一体的に整備する必要がある。 ・福山市都市マスタープラン(H20.8)において、「広域連携軸」に位置づけられている。								

・福山みらい創造ビジョン(R3.3)において、「交流・物流ネットワーク機能の強化」の取組に位置づけられている。

関係する地方公共団体等の意見

◇広島県知事の見解：継続とする対応方針については妥当である。

高規格道路「倉敷福山道路」の一部を構成する一般国道2号福山道路は、本県で整備を進める福山沼隈道路等と連携し、国道2号渋滞ワーストランキングで上位を占める福山市内の著しい交通混雑の緩和や広域連携の強化、物流機能の効率化、また、災害時のリダンダンシー確保の観点からも早期整備が求められる重要な道路です。

引き続き、コスト縮減を徹底していただきながら、早期完成に向けて確実に整備を進めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

・事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針(原案)について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。

・審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

令和4年3月に福山港ふ頭再編改良事業の箕沖地区が完了。

令和4年9月に福山道路と一体的に都市計画決定された福山沼隈道路の側道橋(草戸大橋)が開通。

令和6年8月に福山沼隈道路整備事業に併せて整備された芦田川左岸2号幹線の土手下の道路が開通。

令和7年3月に鞆未来トンネルが開通。

その他、産業団地の造成完了、商業施設の開業等。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・令和6年度末で、事業全体の進捗率は約38%、用地の進捗率は約99%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・現在、引き続き用地買収、改良工事、橋梁上下部工事等を推進していく。

施設の構造や工法の変更等

今後の事業実施にあたっては、コスト縮減に努めていく。

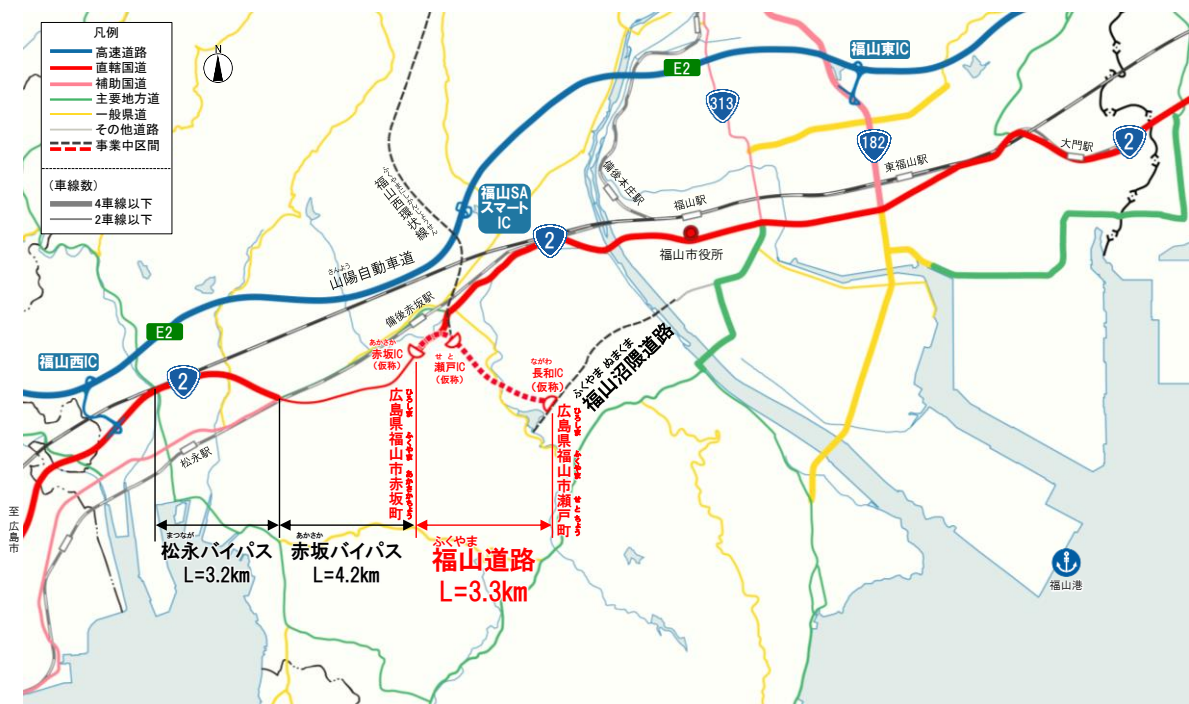
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、倉敷福山道路を対象とした場合、()書きの値は事業化区間にした場合の費用便益分析結果。